



ゴールデンキッズ・トライアルでバランス能力の適性テストを受ける子どもたち
(和歌山ゴールデンキッズ発掘事業)

—— 埋もれた才能を発見するために —— セーリングにおけるタレント発掘事業

分野を問わず、スポーツの競技力向上をめざすためには、選手の才能を早い段階で発見し、育成することが最重要課題だ。日本のスポーツの現場では、優れた素質を持つ人材を発見し、育て上げ、より多くのトップアスリートの世界に輩出しようと、日本オリンピック委員会（JOC）や国立スポーツ科学センター（JISS）と連携したプログラムを実施している。セーリングにおけるタレント発掘・育成の動きを鈴木國央氏にレポートしてもらった。

埋もれた才能を掘り起こすには

小学生たちが「スポーツ」を始めるきっかけは何でしょうか？ 多くの場合、それは学校の体育だと思えます。しかし、学校の体育の授業に必須科目としてセーリングが取り入れられているケースはほとんどありません。

それでは、スポーツを始めた子どもが競技種目を選択するのはいつでしょうか？ それは、学校の部活動や地域でのクラブ活動ではないでしょうか。しかし、この場合においても、セーリングを体験できる小中学校の部活動はほとんど存在しないため、セーリング競技を選択するきっかけは、地域のジュニアヨットクラブなどに限られてしまっています。

また、一度選択した種目を他の種目へ転向する機会がありますか？ これについても中学や高校へ進学してからというのがほとんどなのではないでしょうか。残念ながら多くの子どもたちにとって、セーリング競技を選択できる機会が少ないのが現実なのです。

しかし、セーリング競技を選択できる機会がなかった子どもたち、セーリング競技を体験するきっかけがなかった子どもたちの中には、セーリング競技に楽しさを見出し、将来オリンピックをはじめとした国際舞台にて活躍できる可能性を秘めた逸材が多く隠れていることも事実です。

このように、普段スポーツを行っている子どもたちはもとより、行っていない子どもたちの埋もれている才能を

見つけ、育て、チャレンジする機会を設けるため、全国各地で「タレント発掘事業」が行われています。

セーリングの現場では

現在、各地で行われているタレント発掘事業のなかから、セーリング競技にかかわるケースが福岡、山口、和歌山にあります。それぞれのタレント発掘事業はJOC、JISSなどの協力を得て、各自自治体の特徴を活かす形で行われています。

福岡の「福岡タレント発掘事業」、和歌山の「和歌山ゴールデンキッズ発掘プロジェクト」は適正種目選択型と言われ、県内小中学生を対象としたオーディションを行い、そこで選ばれた子どもたちは「身体能力」、「知的能力」、「食育」などのプログラムを受講する中で、自分自身に適正な競技種目を見つけ出し、選択するという方式です。

また、山口の「YAMAGUCHIジュニアアスリートアカデミー」は、種目特化型といい、セーリング競技に適正なタレントの発掘、育成を行っています。以下に各自自治体における事業の概要を紹介します。

福岡県タレント発掘事業

福岡県タレント発掘事業は、「見つける」：セレクトプログラム
「育てる」：能力開発・育成プログラム
「活かす」：パスウェイプログラム
の3つのプログラムにより構成されています。

平成22年度は2万人を超える応募者



オプティミストディンギーを使ってトレーニングを行う福岡のタレント発掘事業



YAMAGUCHI ジュニアアスリートアカデミーではウインドサーフィンに特化したタレント発掘を行っている



和歌山ゴールデンキッズ発掘事業における様々なプログラム。左から食育、身体能力、レスリング、フェンシング (写真提供・和歌山県教育委員会)

がありました。

その中から選ばれた各学年30名程度の小学校5年生から中学3年生までの5年間、毎週行われる能力開発、育成プログラムを受講し、また、身体能力・育成プログラムによる様々な種目の競技を経験しながら、適時性、効果性を考慮したトレーニングを行い、潜在する運動能力の拡大を目指します。

知的能力開発、育成プログラムでは自ら課題を持つこと、また将来、国際競技会への参加も考慮したコミュニケーションやプレゼンテーションの能力を高めるトレーニングが行われています。

同じく、保護者を対象とした保護者サポートプログラムも実施され、日常的なサポーターである保護者に対して栄養、医学、科学などの知識学習を開講しています。

これらのプログラムを通じて、本人がセーリング競技に将来性を感じたり、適性を推薦されたりすることにより、競技種目を専門的に実施するパスウェイプログラムに移行します。

この競技種目選択は小学校6年時に Rowe ですが、その後新たに発現する能力を踏まえ、中学3年時にもう一度世界を目指す最終種目の選択を行います。

このようにしてセーリング競技を選んだタレントたちが、福岡市立ヨットハーバーを拠点としてセーリング競技活動を始めています。

YAMAGUCHI ジュニアアスリートアカデミー

タレントの発掘は書類審査による一次選考、山口独自のプログラムによる基礎体力、形態測定による2次選考、競技特性項目テストによる3次選考を経て体験プログラムへと移行します。

県内およそ100人の応募生の中から10人前後の小中学生がセーリング専門プログラムを選択し、中学3年生までの間、ウインドサーフィンなどを取り入れた育成プログラムを受講しています。

和歌山ゴールデンキッズ発掘事業

和歌山県では、県内でおおよそ1000人の小学3年生を対象とした体力測定を含むオーディションを行った上、各学年30名前後のゴールデンキッズが認定されます。

ゴールデンキッズたちは小学6年生までの3年間、毎週行われる身体能力プログラム、知的能力開発プログラム、食育プログラムなどを受講します。

同時に、保護者は栄養学や子どものストレスの対応方法などの保護者サポートプログラムを受講します。

身体能力プログラムでは、子どもたちの基礎的な運動能力を発育させるプログラムの他、これまでに選択する機会のないような様々な競技(セーリングを含む)を体験することにより、自分に興味ある競技を見つけ出すことができます。

最終学年となる6年生は、各競技団体が協力して策定した適正テスト項目に沿ったトライアウト(ゴールデンキッズ・トライアル)を実施、個人の特性や能力を発揮できるスポーツの適正を見つけることができます。

2010年の春、1期生がプログラムを修了し、セーリングを選択した修了生の育成、強化が始まりました。

和歌山では和歌山NTC(ナショナルトレーニングセンター)競技別強化拠点と連携し、その機能を活かし、各世代別合宿への参加、和歌山NTCで行われる競技会への参加のサポートを行っています。

子どもたちの才能にワクワク

このように、各種の体力測定により優れた素質を有する子どもたちが早期に見出され、発達段階に応じた「育成プログラム」を受けてセーリング競技を始めます。

すべての競技において、アスリートは勝つために必要な要素を補うトレーニングを行い、トップアスリートとして成長していきます。セーリング競技ではセーリング以外に、持久力を高めるためにランニングを行い、自転車を漕ぎ、ボート上でのバランス能力を鍛えるためにバランスボールに乗ってトレーニングを行います。

もしシャトルランを120回以上も行う子どもがセーリング競技を始めたら? バランスボールにいつまでも乗っていられるような子どもがセーリング競技を始めたら? と想像するとワクワクします。

全国で行われるタレント発掘事業はこのような子どもたちがセーリング競技を体験し、競技者として成長してくれるチャンスであると思います。

発掘された子どもたちは、将来オリンピックピクをほはじめとする国際舞台で活躍することを夢見てプログラムを受講しています。

レスリング、卓球、フェンシングなどの競技ではNTC(味の素ナショナルトレーニングセンター)を中心としたジュニアエリートアカデミーが設置され、全国から発掘された素質ある選手のエリート教育が始まっています。

セーリングにとつては、将来のオリンピック選手を目指す子どもたちを受け入れ、育成、強化する体制を構築することが今後の課題と考えています。(レポート・鈴木國典、編集協力・中村和哉/和歌山セーリングセンター)